

丹後地域の高校の在り方NEWS

【NO.1 平成29年1月】

京都府教育委員会においては、生徒数が今後さらに減少する傾向にある中、丹後地域の府立高校の在り方について検討を進めています。その一環として、これまでに行った公聴会や懇談会、アンケートにおいて、皆さまから寄せられたご意見や疑問点にお応えしてまいります。

検討の視点

今後、中長期的にみて丹後地域においては少子化傾向が顕著で、すでに平成28年度の中学校3年生が904名と1,000名を割り込み、さらに、5年後には700名台、10年後には600名台となる見込みです。

しかしながら、単に生徒数だけをもとに、再編・統合を行うのではなく、丹後地域の通学事情を考慮しながら、一定の規模があった高校が小規模化していくことによる教育活動等の諸課題をできるだけ解消し、より魅力ある高校教育を推進していく観点から検討を進めています。

丹後地域の府立高校の主な役割

- 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育を行います。
(多様な学びの場の保障、教育環境の充実、教育の質の維持・向上)
- 各地域の将来を支える人材を育成します。
- 地域の最高教育機関として、地域社会の活性化に貢献します。



～府教育委員会の基本的な考え方～

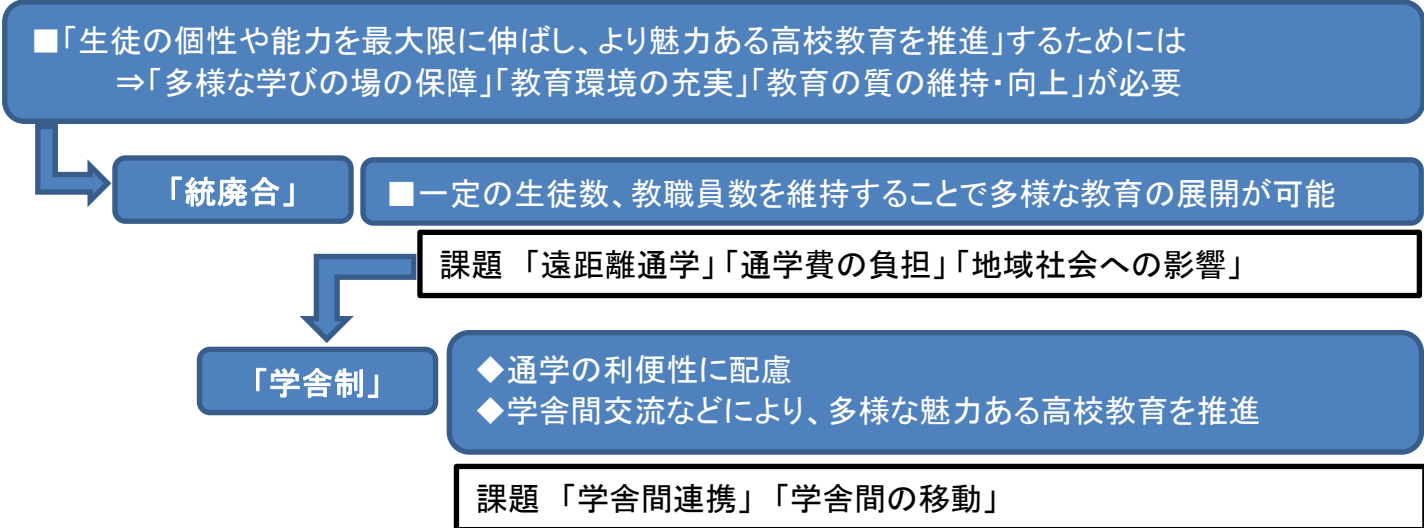
この間、丹後地域の府立高校の今後の在り方として、「三つの道」をお示しし、このうち府教育委員会としては、多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性にも配慮して、現在の校舎を利用する「学舎制」を提案しているところです。

◆「三つの道」の主なメリット・デメリット

小規模であっても各高校を本校のまままで継続する	統廃合により学校規模を確保し教育内容の充実を図る	近隣の複数の高校を1つの高校として再編する「学舎制」の導入
<概要> 現在の高校をそのまま配置	<概要> 宮津・与謝地域で1校 京丹後地域で2校に統合 海洋高校はそのまま継続	<概要> 宮津高校と加悦谷高校、 網野高校と久美浜高校で学舎制を導入 海洋高校、峰山高校はそのまま継続
○メリット ・地域に高校が残る ・通学条件は変わらない	●デメリット ・高校がなくなる地域が生じる ・通学における負担が増える	○メリット ・地域に高校(学舎)が残る ・通学条件は変わらない
●デメリット ・生徒の多様なニーズに応じた教育が困難になる ・今ある部活動(特に団体競技)の維持が困難になる	○メリット ・生徒の多様なニーズに応じた教育が可能 ・今ある部活動の維持が可能	○メリット ・生徒の多様なニーズに応じた教育が可能 ・今ある部活動の維持が可能
		●デメリット ・部活動や学校行事で、学舎間を移動することが生じる ・部活動などにおいて、常に合同で活動することは難しい

より詳しくは、府教育委員会ホームページで紹介しています。

在り方を考える上での基本は、急激に生徒数が減少する中であっても、生徒の個性や能力を最大限に伸ばし、より魅力ある高校教育を推進することです。生徒の立場に立って多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすためには、一定の生徒数、教職員数を維持する必要があります。そのための方法としては「統廃合」がありますが、地域において高校が果たす役割等を踏まえて、府教育委員会は「学舎制」を提案しているところです。



平成28年9月に小・中学生等の保護者の皆さまにご協力いただいたアンケートでも、「今後も生徒数が減少する見込みの中、現在の高校の在り方を変えていくこと」について「必要である」「仕方がない」とご回答いただいた方が約75%おられました。一定の規模のある高校がさらに小規模化すると、「高校を今のまま継続していくことは難しくなる」と感じていただいている方は多いと思いますが、一方で、通学の利便性や地域における高校の役割などを考えると、地域に高校を残してほしいというご意見も多くいただきました。

「学舎制」については、公聴会や懇話会、アンケートを通じて様々なご質問をいただいておりますので、よりご理解を深めていただくために、「NEWS NO.2」に主なQ&Aをまとめましたので、ご覧ください。

◆多様な教育課程とは（高校教育の特徴）

高校の授業には、希望進路や興味・関心に応じて、生徒が選択できる教科・科目があります。

各高校では、生徒の進路に適したコースを設定し、時間割を組み立てます。下表は高校の文系・理系コースで卒業するまでに学習する科目の割合を比較したものの例です。文系には「国語」「地歴・公民」の科目が多く、理系は「数学」「理科」の科目が多くなっています。このように、選択科目を設けて指導することが高校教育の大きな特徴です。生徒の様々なニーズにあった教育課程を設定するとともに、担当する先生の確保も重要です。

また、「総合的な学習の時間」では、生徒が課題を設定し、少人数グループで課題解決に向けた調査、研究に取り組み、その成果を発表するといった学習を行っています。他の生徒と力を合わせて学習することで、論理的思考力やコミュニケーション能力、表現力を養っています。

文系	国語	地歴・公民	英語	数学	理科	共通の科目
理系	国語	地歴・公民	英語	数学	理科	共通の科目

お問い合わせ:

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 京都府教育庁指導部高校教育課
☎075-414-5857

(ホームページ)

